

第11回 定時社員総会資料

一般社団法人日本医療薬学会

日 時 : 2019年3月20日（水）15時30分～16時30分
場 所 : ホテル ザ・マンハッタン2階 ルーナ1・2

第11回 定時社員総会 次第

1. 会頭挨拶
2. 成立確認
3. 議事録署名人の指名
4. 協議事項

第一号議案 平成30年度事業報告(案)	1 ページ
第二号議案 平成30年度決算報告(案)	25 ページ
第三号議案 平成30年度監査報告	33 ページ

協議事項 第一号議案

平成 30 年度 事業報告(案)

自 平成 30 年 1 月 1 日
至 平成 30 年 12 月 31 日

平成 30 年度事業報告(案)

平成 30 年は、日本医療薬学会の前身である日本病院薬学会が設立されてから 28 年目を迎え、正会員が 12,400 人を超えた。また、本学会最大イベントである第 28 回年会を、千堂年昭（岡山大学病院 教授・薬剤部長）を年会長として、11 月 23 日から 25 日までの 3 日間にわたり神戸コンベンションセンターで開催した。一般参加者 9,418 人と招待者を合わせて参加者数は 9,500 人を超える、またシンポジウムや一般演題も過去最大数になるなど、活気に満ち溢れた年会となった。

3 月 25 日に金沢市で開催した第 10 回定時社員総会において、新任の理事 4 名及び監事 1 名を含めた 23 名の新役員に係る就任決議が行われ、奥田真弘を会頭とする新役員体制が了承され、同総会の終結後より発足した。続いて 4 月に改編を迎えた各委員会の委員長の交代が行われ、新会頭の方針のもと平成 30 年度の事業計画に基づいた活動が活発に進められた。中でも、長年の懸案であった 2 つの検討事項に精力的に取り組んだ。1 つ目は認定薬剤師制度と専門薬剤師制度の見直しであり、制度間の不整合を解消し会員にとって分かりやすい制度設計に変更するとともに、新たな認定制度の発足を含めた検討を行った。2 つ目は公益社団法人の認可取得に向けた定款見直しや制度設計に係る検討を進めた。公益法人化に備え代議員選出規程を見直し、2019-2020 年度の代議員選挙は新たな規程に基づき実施され、当選した代議員は第 11 回定時社員総会の終結時より概ね 2 年間の任期を以て就任することになる。

平成 30 年度事業報告の概要は以下のとおりである。

〔1〕事業の部

1. 会員数（平成 30 年 12 月 31 日現在）

正会員：12,408 名、 学生会員：226 名、 賛助会員：16 社・団体
名誉会員：26 名

2. 認定薬剤師制度の認定数（平成 31 年 1 月 1 日現在）

認定薬剤師：1,589 名
指導薬剤師：830 名
研修施設：267 施設

3. がん専門薬剤師制度の認定数（平成 31 年 1 月 1 日現在）

がん専門薬剤師：622 名
がん指導薬剤師：267 名
がん専門薬剤師研修施設：272 施設

4. 薬物療法専門薬剤師制度の認定数（平成 31 年 1 月 1 日現在）

薬物療法専門薬剤師：40 名
薬物療法指導薬剤師：26 名
薬物療法専門薬剤師研修施設：194 施設

5. 会議・委員会開催状況

社員総会 2 回（定時・臨時 各 1 回）、定例理事会 6 回、理事会事前打合せ 5 回、財務委員会 3 回（予算会議 1 回、会計点検 1 回、決算準備 1 回）、監事監査 1 回、国際交流委員会 2 回、医療薬学編集委員会 2 回、JPHCS 編集委員会 2 回、医療薬学教育委員会 3 回、認定薬剤師認定制度委員会 2 回、がん専門薬剤師認定制度委員会 2 回、がん専門薬剤師研修小委員会 3 回、がん専門薬剤師試験小委員会 3 回、がん専門薬剤師全体会議運営会議 4 回、専門薬剤師育成委員会 3 回、専門薬剤師育成委員会・保険薬局 WG1 回、専門薬剤師育成委員会・大学教員 WG1 回、専門薬剤師育成委員会・連携施設 WG1 回、薬物療法専門薬剤師認定制度委員会 2 回、薬物療法専門薬剤師研修小委員会 1 回、薬物療法専門薬剤師・認定薬剤師認定試験実行小委員会 5 回、企画・シンポジウム委員会 2 回、功績賞選考委員会 1 回、学術貢献賞・奨励賞等選考委員会 1 回、論文賞選考委員会 1 回、役員候補者推薦委員会 1 回、代議員候補者推薦委員会 1 回、医療薬学学術委員会 1 回、医療薬学学術小委員会 7 回、フレッシャーズ・カンファランス委員会 3 回、フレッシャーズ・カンファランス実行委員会 1 回、公益社団法人化検討特別委員会 3 回、がん専門薬剤師抗がん薬プロフィール小委員会 1 回、年会長候補者推薦委員会 1 回、選挙制度委員会 2 回、海外研修派遣員選考委員会 1 回、年会あり方検討委員会 1 回

6. 各委員会活動報告

(1) 総務委員会

- 1) 公益社団法人化を念頭に代議員選出規程の見直しを図り、代議員選挙管理委員会及び代議員候補者推薦委員会を編成した。
- 2) 2019 年度事業計画の草案を検討した。
- 3) 本学会の公益社団法人の認可取得に関する議論に必要な準備を行った。
- 4) 事務局職員の雇用条件を見直し、新規の採用を行った。
- 5) 事務局職員の人事管理・労務等を調査した。

(2) 財務委員会

- 1) 平成 29 年度決算報告書を取りまとめた。
- 2) 2019 年度予算案を作成した。
- 3) 事務局で保有している会計帳簿類を点検した。

(3) 広報委員会

- 1) 2019 年度広報用パンフレットの改訂
学生や若手薬剤師の新規入会促進への活用を目的とした学会紹介パンフレットの改訂版を作成し、全国の薬学部をはじめ関連機関へ配布した。
- 2) 学会ホームページのリニューアル
トップページのデザインの変更をした。

(4) 企画・シンポジウム委員会

- 1) 医療薬学公開シンポジウムの開催
第 69 回から第 72 回までの 4 回の公開シンポジウムを開催した。

- ① 第 69 回 福島県、中川直人（奥羽大学 薬学部教授）
開催日 8月 11 日、会場 ビッグアイ市民交流プラザ
テーマ「医療経済と薬剤師」
- ② 第 70 回 福井県、後藤伸之（福井大学医学部附属病院 教授・薬剤部長）
開催日 9月 8 日、会場 福井大学医学部附属病院臨床教育研修センター
テーマ「地域の特色を生かした薬学教育」
- ③ 第 71 回 神奈川県、厚田幸一郎（北里大学病院 薬剤部長・薬学部教授）
開催日 10月 27 日、会場 北里大学相模原キャンパス臨床教育研究棟 IPE ホール
テーマ「これからの薬剤師教育を考える」
- ④ 第 72 回 福岡県、入江利行（小倉記念病院 薬剤部長）
開催日 10月 28 日、会場 小倉記念病院講堂
テーマ「進化する薬剤師～さらなる専門性の追求～」

2) 2019 年度、2020 年度の医療薬学公開シンポジウムの開催計画の検討

2019 年度（第 73 回から第 76 回までの 4 回）及び 2020 年度（第 77 回から第 80 回までの 4 回）の公開シンポジウムの開催を企画した。また、公開シンポジウムのテーマを検討し、下記の各実行委員長に提示した。

① 2019 年度

青森県	新岡丈典	弘前大学医学部附属病院 教授・薬剤部長
奈良県	池田和之	奈良県立医科大学病院 副薬剤部長
愛媛県	田中亮裕	愛媛大学医学部附属病院 准教授・薬剤部長
大分県	伊東弘樹	大分大学医学部附属病院 教授・薬剤部長

② 2020 年度

岩手県	工藤賢三	岩手医科大学附属病院 教授・薬剤部長
群馬県	山本康次郎	群馬大学医学部附属病院 教授・薬剤部長
岐阜県	北市清幸	岐阜薬科大学 薬学部 教授
山口県	北原隆志	山口大学医学部附属病院 教授・薬剤部長

3) 年会に係るシンポジウムへの演題と登録

本学会の各委員会が企画する第 28 回年会のシンポジウム等の演題登録に際して、当委員会が窓口となって各委員会への登録を募った。取り纏めた結果を理事会で協議し、第 28 回年会への組み入れを提言した。

(5) 会員委員会

- 1) 会費の遡及納入に係る嘆願書及び休会届を受け付け、対応を検討した。
- 2) 2019 年度分会費の納入依頼を、学会ホームページ及び医療薬学第 44 卷 11、12 両号にて周知すると共に、会員にメールを配信して納入依頼を行った。
- 3) 第 28 回年会の会場にクレジット払い用端末を設置し、会費納入の利便性を高めた。

(6) 医療薬学編集委員会

- 1) 「医療薬学」第 44 卷 1 号～12 号を編集・発行した。
 - ① 平成 30 年 1 月から 12 月までに 141 編（うち非学会員から 8 編）の論文投稿を受け、同期間に内に 83 編を採択した。（採択率：58.9%）

- ② 第44巻1号～12号に78編の論文を掲載した。
内訳：総説5編、一般論文16編、ノート56編、ミニレビュー1編
(うち英文論文は1編)
- 2) その他の寄稿区分として、専門薬剤師リレーエッセイ12編を掲載した。
- 3) 投稿論文数の増加を目指して対策を検討した。
- 4) 各種倫理指針・ガイドライン等に加え、平成30年4月より臨床研究法が施行され、論文作成・投稿に際し、各種の倫理規定やガイドライン等の遵守が求められたことから投稿規程・執筆規程の見直しを検討した。

(7) JPHCS編集委員会

- 1) 英文誌Journal of Pharmaceutical Health Care and Sciences (JPHCS)の第4巻(2018年)を編集・発行した。
① 2018年1月から12月までに64編の論文投稿を受けた。
内訳：Research article 52編、Case report 4編、Review 2編、Short report 6編
② 第4巻(2018年)に33編の論文を掲載した。
内訳：Research article 27編、Case report 3編、Short Report 3編（採択率は51.6%）
2) 本誌の査読者の拡大策、総説の執筆依頼及び本誌の論文賞の設置に係る協議を行った。

(8) 認定薬剤師制度委員会

- 1) 認定薬剤師、研修施設の認定者及び施設数は次のとおり。
① 認定薬剤師の受験資格の審査、認定試験の概要及び認定者数
申請者数121名、受験者数117名、認定者数101名（合格率86.3%）
平成30年7月29日（日）に認定試験を実施した。
② 指導薬剤師委嘱審査及び委嘱者数
申請者数55名、委嘱者数52名
(うち、認定薬剤師の認定と指導薬剤師の委嘱を同時に受けた者の数15名)
③ 研修施設の認定施設数（2期に分けて申請受付）
申請施設数20施設、認定施設数20施設（1期14施設、2期6施設）、
④ 認定薬剤師更新者数
申請者数318名、更新者数318名
⑤ 研修施設更新数
更新対象施設数107施設、更新施設数90施設
- 2) 専門薬剤師育成委員会からの要請を受け、認定薬剤師制度の見直しに係る検討事項について、本委員会の席上で議論した。
- 3) 小委員会の活動
薬物療法専門薬剤師・認定薬剤師認定試験問題小委員会及び認定試験実行小委員会において、平成30年度薬物療法専門薬剤師・認定薬剤師認定試験の問題の作成及び試験の実施に取り組んだ。

(9) がん専門薬剤師認定制度委員会

- 1) がん専門薬剤師、がん指導薬剤師、がん専門薬剤師研修施設の認定者及び施設数は次のとおり。
 - ① がん専門薬剤師・新規認定 68 名、更新認定 72 名、更新保留 9 名
 - ② がん指導薬剤師・新規認定 30 名
 - ③ がん専門薬剤師研修施設・新規認定 19 施設、更新認定 11 施設
- 2) 教育啓発活動として、集中教育講座、アドバンスト研修会、がん専門薬剤師全体会議、年会におけるシンポジウム、症例サマリーの書き方に関する講座を実施した。
- 3) がん専門薬剤師全体会議の企画運営を担う組織を小委員会として立ち上げる検討を進めた。第 8 回目(2020 年度)開催分から当該小委員会による運営を目指す。
- 4) 学術小委員会への応募案件「症例報告書データベース化のためのシステム構築」に 2 名の協力者を、厚生労働科研の高齢者がんコンソーシアムに 1 名をそれぞれ推薦した。
- 5) 小委員会の活動
 - ① がん専門薬剤師試験小委員会
がん専門薬剤師認定試験問題を作成し、平成 30 年 11 月 3 日（土）に認定試験を実施した。受験者数 74 名中 64 名（86.5%）を合格とした。
 - ② がん専門薬剤師研修小委員会
 - ・がん専門薬剤師集中教育講座（日本病院薬剤師会との共催により 4 回開催）
東京都 平成 30 年 2 月 17 日、18 日、平成 30 年 6 月 30 日、7 月 1 日
京都市 平成 30 年 5 月 19 日、20 日、福岡市 平成 30 年 12 月 1 日、2 日
 - ・第 6 回がん専門薬剤師全体会議（東京都、平成 30 年 5 月 12 日）
 - ・第 6 回がん専門薬剤師アドバンスト研修会（広島市、平成 30 年 11 月 3 日）
 - ・他学会が実施する講習会・教育セミナーの受講単位を認定した。
 - ・がん専門薬剤師養成研修ガイドライン及びコアカリキュラムの改訂作業を進めた。
 - ③ 抗がん薬プロフィール小委員会
抗がん薬のリスク因子プロフィールの作成を終了した。本小委員会が作成した資料を日本癌治療学会ホームページ内の「がん診療ガイドライン」に掲載をするため、癌治療学会ガイドライン統括・連絡委員会の医薬品プロフィール領域担当委員が準備を進めている。また、新規抗がん剤に関しても隨時対応を進める。

(10) 薬物療法専門薬剤師認定制度委員会

- 1) 薬物療法専門薬剤師、薬物療法指導薬剤師、薬物療法専門薬剤師研修施設の各認定者・施設数は次のとおり。
 - ① 薬物療法専門薬剤師・新規認定 4 名（うち 1 名は認定薬剤師と同時認定）、更新認定 3 名、更新保留 2 名
 - ② 薬物療法指導薬剤師・新規認定 4 名、更新認定 1 名
 - ③ 薬物療法専門薬剤師研修施設・新規認定 14 施設、更新認定 15 施設
- 2) 薬物療法専門薬剤師制度の見直しに係る検討事項についての議論を行い、がん専門薬剤師及び同指導薬剤師の認定要件との整合化を図る方針に意見の一一致を見た。
- 3) 認定申請者の増加の方策を協議し、研修会を広報活動の一つとして位置付けると共に、研修会のあり方や新たな企画に係る具体的な検討を研修小委員会に依頼した。

4) 小委員会の活動

薬物療法専門薬剤師研修小委員会が主体となって、次の活動を実施した。

① 薬物療法専門薬剤師集中講義を 2 回開催した。

大阪 平成 30 年 7 月 28 日、29 日、 東京 平成 30 年 10 月 20 日、21 日

② 他学会・団体が実施する講習会・教育セミナーの受講単位を認定した。

(11) 専門薬剤師育成委員会

1) 本学会の認定薬剤師制度や専門薬剤師制度の整合性を図るために、関連する制度の見直しを行った。

① 認定薬剤師制度の位置づけを見直し、がん専門薬剤師及び薬物療法専門薬剤師制度とは独立した制度設計とすること。

② がん専門薬剤師と薬物療法専門薬剤師の各制度を見直し、制度間で整合性のあるものにすること。

2) 大学教員及び保険薬局薬剤師の各認定資格に係る検討 WG において、両者の資質向上に繋がる認定制度のあり方を検討した。

3) 研修施設の連携を検討する WG を新たに編成し、連携のあり方について検討を行った。

4) 薬物療法専門薬剤師制度の今後の方向性と発展性について検討した。

① 大学教員及び保険薬局薬剤師の各認定資格に係る検討 WG において、大学教員及び保険薬局薬剤師の資質向上に繋がる認定制度のあり方を検討した。

② 第 28 回本学会年会において「薬局薬剤師のエビデンス化に向けた取り組み」と題するシンポジウムを開催した。

③ 「薬局・病薬剤師向けの臨床・疫学研究入門講座 -クリニカルクエスチョンの立て方と計画の立案-」(平成 30 年 2 月 18 日開催) を開催した。

(12) 功績賞選考委員会

平成 30 年度の功績賞受賞候補者 3 名を選出した。

<功績賞>

- ・ 青山隆夫 (東京理科大学 薬学部)
- ・ 佐々木均 (長崎大学病院 薬剤部)
- ・ 谷川原祐介 (慶應義塾大学 医学部)

(13) 学術貢献賞・奨励賞等選考委員会

平成 30 年度の学術貢献賞 1 名、奨励賞 3 名及び Postdoctoral Award 5 名の各受賞候補者を選出した

<学術貢献賞>

- ・ 内田享弘 (武庫川女子大学 薬学部)
研究題目 経口製剤・注射剤に関する臨床製剤学的研究

<奨励賞>

- ・ 小瀬英司 (日本大学 薬学部)
研究題目 回復期リハビリテーション病棟においてリハビリテーションのアウトカムに及ぼす薬学的要因に関する研究

- ・ 長井紀章 (近畿大学 薬学部)
研究題目 点眼薬の有用性向上を目指して：製剤学特性に基づく点眼薬評価とナノ医薬品の応用性
- ・ 山本武人 (東京大学大学院 薬学系研究科)
研究題目 急性腎障害患者・血液浄化療法導入患者に対する理論的な投与量設計に関する研究

<Postdoctoral Award>

- ・ 北澤文章 (独立行政法人地域医療機能推進機構 京都鞍馬口医療センター 薬剤科)
学位論文題目 がん薬物療法における治療マネジメント向上に関する医療薬学的研究
- ・ 斎藤佳敬 (北海道大学病院 薬剤部)
学位論文題目 マグネシウム投与によるシスプラチニン起因性腎障害の予防効果およびその機序の解明
- ・ 相良篤信 (名古屋大学医学部附属病院 薬剤部)
学位論文題目 Exploring therapeutic strategy and prognostic biomarker of malignant breast cancer
- ・ 鈴木賢一 (がん研究会有明病院 薬剤部)
学位論文題目 シスプラチニンを含む高度催吐性化学療法における最適な制吐療法の開発
- ・ 前田真之 (昭和大学 薬学部)
学位論文題目 菌血症患者における多職種チームによる治療支援の臨床的アウトカムと予後関連因子に関する研究

(14) 論文賞選考委員会

平成30年度の論文賞候補論文を3編選出した。

<論文賞>

- ・ 論文題目 データマイニング手法を用いたガンシクロビル誘発性好中球減少症の要因分析
著者 今井俊吾, 山田武宏, 小林正紀, 笠師久美子, 井関健
(医療薬学 第43巻10号, 552-562)
- ・ 論文題目 滋賀県全域で5年にわたり展開されたCKDシールのアウトカム評価
著者 磯野哲一郎, 國津侑貴, 増田恭子, 平大樹, 荒木久澄, 荒木信一, 宇津貴, 寺田智祐
(医療薬学 第43巻11号, 601-609)
- ・ 論文題目 電子カルテ記録に基づいたアロプリノール製剤の母集団薬効動態解析
著者 緒方貴洸, 兼重晋, 松尾宏一, 松永直哉, 小柳悟, 大戸茂弘, 神村英利
(医療薬学 第43巻11号, 630-639)

(15) 医療薬学教育委員会

- 1) 第2回医療薬学教育セミナーを開催した。
 - ・ テーマ 臨床研究成果を論文にするために
 - ・ 日程 平成30年4月22日（日）10時～16時
 - ・ 会場 日本薬学会長井記念館地下2階ホール
 - ・ 参加者 223名（一般222名、学生1名）
- 2) 第28回国年会でのシンポジウムを開催した。
 - ・ テーマ 臨床研究の始め方と実践－論文化を目指して－
 - ・ 日程 平成30年11月24日（土）15時35分～17時35分
 - ・ 会場 神戸国際展示場2号館
- 3) 今後のセミナーの開催計画を検討した。

第3回医療薬学教育セミナー

 - ・ テーマ 臨床研究成果を論文にするために
 - ・ 日程 2019年4月21日（日）10時～16時
 - ・ 会場 東京国際交流館プラザ平成 国際交流会議場

(16) 国際交流委員会

- 1) 国際シンポジウムの開催

第28回国日本医療薬学会年会（神戸）において、国際シンポジウムを開催した。

 - ・ テーマ Pharmacy Education, Research and Practice Models in Asia
 - ・ 日程 平成30年11月23日（金） 13時20分～18時30分
 - ・ 概要 第1部 中国、米国、タイ及び日本からの4名が講師
第2部 日本人5名による英語でのセッション
International Poster Sessionを開催。中国、韓国、日本から13演題の発表があった。
 - ・ 参加者：150名以上（1部、2部を通して）が参加し活発な議論が行われた。
- 2) 新たな海外研修制度の検討および研修候補者の選考
 - ① 新たな海外研修のあり方について、対象者を専門薬剤師の有資格者から本学会の会員に拡げ、海外施設での研修や見学、海外で開催される学会等での発表への助成金の交付を検討した。
 - ② 平成30年度海外研修の募集に対し3件の応募があり、規定に従い厳正に検討した結果、うち2件を選考した。

(17) 医療薬学学術委員会

- 1) 医療薬学学術小委員会の新規募集・採択

2019年4月より発足する医療薬学学術小委員の研究テーマの公募に6件の応募があり、2件を採択した。

 - ① 医療薬学学術第四小委員会
 - 研究代表者 米澤淳（京都大学大学院 薬学研究科）
 - 研究テーマ 医療現場における薬物相互作用マネジメント能力育成に関する研究

② 医療薬学学術第五小委員会

研究代表者 石塚雅子（名古屋大学医学部附属病院 薬剤部）

研究テーマ 症例報告書をデータベース化して利活用するためのシステム構築

2) 小委員会の活動

① 医療薬学学術第一小委員会（伊藤清美委員長）の活動報告

- ・委員で合同執筆した総説「医療現場における薬物相互作用へのかかわり方」（全 3 編）を本学会誌「医療薬学」に投稿し、査読を経て第 44 卷 11 号に掲載された。
- ・本総説の内容に基づき、Q&A 形式の手引きの作成に着手した。

② 第二小委員会（寺田智祐委員長）の活動報告

- ・「薬学的視点に基づいたプレゼンション・メディシンの国内基盤構築のための研究調査」の 1 年目として、がんゲノム医療中核拠点病院や特定機能病院など 125 施設を対象にして、PGx や TDM に関する施設の体制整備に関するアンケートを行った（回収率 96.8%）。
- ・アンケートの解析・評価を行うと共に、2019 年度に実施する個人向けのアンケートの作成に着手した。

③ 第三小委員会（宮崎雅之委員長）の活動報告

- ・他府県におけるがん領域の臨床研究活動を把握するために、平成 30 年 10 月 6 日に名古屋大学医学部にて第 1 回会議を開催した。委員およびアドバイザーにて本活動計画の確認と共に、他府県の活動状況について情報共有した。
- ・第 28 回年会（平成 30 年 11 月、神戸）においてシンポジウム「日本医療薬学会第三小委員会の活動～がん領域における薬剤師による臨床研究支援プラットフォーム構築の取り組み～」を開催した。

(18) 出版委員会

「病態を理解して組み立てる薬剤師のための疾患別薬物療法」（南江堂）シリーズの改訂版の普及促進のため、学会ホームページへの掲載、学会誌への広告、他団体への広告掲載の協力を依頼した。

(19) フレッシャーズ・カンファランス委員会

第 2 回フレッシャーズ・カンファランスを 7 月 8 日に京都薬科大学を会場として開催する予定であったが、大雨の影響を受けたため、やむを得ず開催を中止した。ただし、本学会ホームページ上での演題要旨を公表するなどの対応が進んでいたことより、理事会で協議し、本カンファランスは成立したものとして取り扱った。

(20) 年会長候補者推薦委員会

第 33 回日本医療薬学会年会（2023 年開催）の年会長候補者として、三浦昌朋（秋田大学医学部附属病院 教授・薬剤部長）を選出した。

(21) 選挙制度委員会

公益社団法人への移行を念頭に代議員選出規程を見直した。具体的には、代議員候補者推薦委員会による推薦候補者（定数の 10%）も投票の対象とし、立候補者と合わせて被選挙人名簿を構成することとした。

(22) 公益社団法人化検討特別委員会

公益社団法人の認定申請を前提として、公益社団法人としての組織体制、諸規程、事業内容、財政状況、事務運営体制等の観点から認可取得に向けた問題点の確認と協議、並びに移行スケジュールに関する検討を行った。また、内閣府公益認定等委員会事務局における窓口相談を実施した。

(23) 年会あり方検討委員会

年会の実施にあたり、年会長が取り組みやすい体制作りや公益社団法人を見据えた学会としての組織体制及び諸規程類の整備等の検討を行った。

(24) 人事委員会

平成 30 年 10 月に事務局の常勤職員及び非常勤職員を 1 名ずつ採用した。

7. 年会（第 28 回日本医療薬学会年会）

『医療薬学の持続的進化のための新たなパラダイム構築～教育・臨床業務・研究～』

開催日 平成 30 年 11 月 23 日（金・祝）～25 日（日）

会 場 神戸国際コンベンションセンター

(1) 事業内容

年会長講演	1 題
特別講演	3 題
教育講演	2 題
日本医療薬学会 学術貢献賞・奨励賞受賞講演	4 題
日本医療薬学会 Postdoctoral Award 受賞講演	5 題
特別企画シンポジウム	1 セッション
International Symposium (国際シンポジウム)	2 セッション
シンポジウム（公募）	66 セッション
ワークショップ	3 セッション
市民公開講座	1 セッション
CJK Joint Symposium for Clinical Information on Parenteral Drugs (第 16 回日中韓合同注射薬臨床情報学シンポジウム)	1 セッション
一般演題	1,746 題
i) 口頭	360 題 (うち優秀演題候補 50 題)
ii) ポスター	1,386 題
International Poster	18 題
平成 30 年度日本病院薬剤師会病院薬局協議会／学術フォーラム	
共催セミナー	43 セッション
日本薬科機器協会ワークショップ	
◆ 一般参加者数	9,418 名
◆ 懇親会	400 名（招待者除く）

(2) 事業成果

第 28 回日本医療薬学会年会を、平成 30 年 11 月 23 日（金・祝）～25 日（日）の 3 日間、神戸国際会議場・神戸国際展示場・神戸ポートピアホテル本館（兵庫県神戸市）において開催した。参加者は国内外から 9,418 名、招待者を含め 9,500 名を超える参加者となった。

本年会のテーマは「医療薬学の持続的進化のための新たなパラダイム構築～教育・臨床業務・研究～」とした。組織委員長は岡山大学病院薬剤部の北村佳久准教授が務め、4 名の副組織委員長と共に会の運営にあたった。特別講演 1 では岡山大学病院臓器移植医療センターの大藤剛宏教授が「肺移植の革新」と題して、慢性的にドナー不足に悩む本邦での移植医療、特に肺移植の抱える課題についての講演があった。特別講演 2 では Sinfonia Rx, の Sandra Leal CHIEF EXECUTIVE OFFICER が Integration of clinical pharmacy service: implementation, research, outcomes, sustainability と題して、アメリカで薬剤師を中心に行われている個々の患者の健康成果を最適化するように設計されたパーソナライズドサービスについての講演があった。特別講演 3 では岡山大学大学院医歯薬学総合研究科の西堀正洋教授が「敗血症病態の新しい理解と治療法の開発」と題して、生命を脅かす臓器障害を伴う感染症であり、重症化すると致死性の極めて高い敗血症について、敗血症病態形成における循環好中球の制御の重要性と、血漿タンパクである Histidine-rich glycoprotein をその低下レベルに応じて治療薬とするという講演があった。教育講演 1 では中野重行大分大学名誉教授・創薬育薬コミュニケーション協会代表が「医療コミュニケーション：治療医学における意義」と題して、臨床薬理学と心身医学を専門にしてきた医師として、特にこの 20 年にわたって医療コミュニケーション教育と模擬患者や臨床研究コーディネーターの育成に携わってきた視点から、医療コミュニケーションの治療医学における意義についての講演があった。教育講演 2 では社会医療法人清風会岡山家庭医療センター奈義・津山・湯郷ファミリークリニックの松下明所長が「家庭医療専門薬剤師レジデンシーとプライマリ・ケア領域での薬剤師教育－家庭医の立場から－」と題して、家庭医療専門薬剤師レジデンシーについて、薬剤師が家庭医療やプライマリ・ケアの概念を身に着けた地域で役立つ薬剤師の育成の現状と今後の日本のあるべきプライマリ・ケア像についての講演があった。

特別シンポジウムでは、近年話題となっている AI（人工知能）に関する内容を企画した。高度な技術が進み、現在、各産業において AI の研究がなされ導入が進んでいるなか、薬剤師の活動の場にも具体的な導入事例が散見されるようになり、AI に関する話題が注目されるようになった。調剤業務は、患者への問診がパターン化され AI を利用できる部分があるといえる。さらに入間以上に早く、正確に医薬品を提供できる可能性が考えられる。薬剤師は AI に得意分野は任せ、薬剤師本来が持つ職能を発揮しさらに薬物療法の充実に努めていくことができるとして、討論する機会を設けた。

公募シンポジウムは応募数 99 件の応募があり、66 件を採択した。チーム医療や病診薬連携を基にした薬物療法に関するスペシャリストとして、医療現場において大きな役割を担い活動する日々の成果に関する企画が多くみられた。国際シンポジウムについては、同じ会場で第 16 回日中韓合同注射薬臨床情報学シンポジウムが開かれていたこともあり、終日国際的な雰囲気であった。本年は日本、中国、アメリカ、韓国、タイからの参加があり、年々確実に変わっていく各国の薬剤師の現状について発表があった。

一般演題については口頭発表が 360 題、ポスター発表については 1,386 題が採択された。

ワークショップは3企画が実施され、どの企画も薬剤師が求める内容を実際に体験できるとあって、参加者が熱心に受講していた。また、メディカルセミナーも43企画が最新の内容を提供し、ほぼすべての企画が参加者で埋め尽くされる盛況ぶりであった。優秀演題に関して口演の各部門から10題を表彰した。市民公開講座は岡山大学大学院医歯薬総合研究科の菱川望講師と、オフィスチャイトララタの高橋依子氏が「東洋医学と西洋医学がお勧めする認知症予防のための食事法・運動法」と題し、実技を加えての楽しい市民公開講座となった。

今回は、事前に入場者を考慮し余裕を持った会場の確保に努めたが、過去最多の参加者となつたこともありいくつかの会場では座席が十分ではなかつたことを反省点として挙げる。しかし、全体としては大きな混乱もなく盛会のうちに終えることができた。

8. 医療薬学公開シンポジウム

(1) 第69回医療薬学公開シンポジウム

医療経済と薬剤師

開催日 平成30年8月11日（土）

会場 ビッグアイ7階 市民交流プラザ 大会議室

基調講演

座長：奥羽大学 薬学部教授 井上忠夫

「薬剤経済学と薬剤師～「対岸の火事」を超えて～」

東京大学大学院 薬学系研究科特任准教授 五十嵐中

シンポジウム

座長：奥羽大学 薬学部教授 中川直人

講演1

「薬剤師による薬学的介入から得られる医療経済効果の推算」

愛媛大学医学部附属病院 医療安全管理部 田坂祐一

講演2

「臨床薬剤師からみた薬剤経済学」

東邦大学医療センター大森病院 薬剤部 山西由里子

講演3

「薬剤経済分析による分子標的薬の最適な治療戦略」

山形大学医学部附属病院 薬剤部 志田敏宏

◆参加人数 72名

(2) 第70回医療薬学公開シンポジウム

地域の特色を生かした薬学教育

開催日 平成30年9月8日（土）

会場 福井大学医学部附属病院 臨床教育研修センター 白翁会ホール

基調講演

座長：福井大学医学部附属病院 医学研究支援センター講師 渡邊亨平

「薬学教育の評価 アウトカム基盤型教育の実現をサポートするIR実践」

名城大学薬学部 医薬品情報学研究室教授 大津史子

教育講演

座長：福井大学医学部附属病院 薬剤部講師・副薬剤部長 塚本仁

「百寿社会における大学と大学病院の役割」

福井大学医学部 地域医療推進講座講師 山村修

シンポジウム

座長：北陸大学 薬学部教授 野村政明

福井大学医学部附属病院 薬剤部教授・薬剤部長 後藤伸之

「患者さんの受診の流れに沿った新実務実習」

金沢大学医薬保健研究域 薬学系教授 松下良

「一般社団法人福井県薬剤師会の「基幹薬局」と「協力薬局」が連携した取り組みについて」

(一社)福井県薬剤師会 副会長・薬学生実務実習運営委員会委員長 角野雅之
「より有意義で効果的な実務実習を目指して

～薬局・病院が連携した一貫性のある実習の実現に向けて～」

名城大学薬学部 臨床薬学教育・研究推進センター実践薬学Ⅰ教授 黒野俊介
「近畿地区における大学－薬局－病院の連携強化に向けた取り組み」

大阪薬科大学 臨床薬学教育研究センター准教授 角山香織

◆参加人数 59名

(3) 第71回医療薬学公開シンポジウム

これから薬剤師教育を考える

開催日 平成30年10月27日(土)

会場 北里大学相模原キャンパス臨床教育研究棟 IPEホール

基調講演Ⅰ

座長：北里大学病院 薬剤部長・薬学部教授 厚田幸一郎

「卒前教育・実習の現状と課題」

北里大学メディカルセンター 薬剤部長・薬学部教授 尾鳥勝也

基調講演Ⅱ

座長：神奈川県薬剤師会 副会長 小川護

「薬局と病院の連携による薬剤師教育」

一般社団法人兵庫県薬剤師会 副会長 三宅圭一

シンポジウム 薬剤師教育の現状と展望

座長：公益社団法人相模原市薬剤師会 副会長 大岡元

北里大学薬学部 講師 小林昌宏

「薬局薬剤師の研修プログラム」

ファーマシール山台 三澤喜彦

「中小規模病院の専門・認定薬剤師教育－抗菌化学療法－」

横浜総合病院 薬剤科 佐村優

「臨床薬剤師を育てる！～10年後の未来を見据えて～」

聖マリアンナ医科大学病院 薬剤部 前田幹広

「北里大学における薬剤師海外研修」

北里大学病院 薬剤部 赤嶺聰彦
北里大学メディカルセンター 薬剤部 宮森亜紀子
◆参加人数 104名

- (4) 第 72 回医療薬学公開シンポジウム
進化する薬剤師～さらなる専門性の追求～
開催日 平成 30 年 10 月 28 日（日）
会 場 小倉記念病院 4 階 講堂
シンポジウム
座長：産業医科大学病院 薬剤部長 植木哲也
独立行政法人地域医療機能推進機構 九州病院 薬剤部長 末松文博
「心不全患者の緩和医療における薬剤師の専門性について考える」
小倉記念病院 薬剤部主任 前田朱香
「急性期医療における薬剤師の専門性」
長崎大学病院 薬剤部 安藝敬生
「抗菌薬適正使用支援チーム（AST）における薬剤師の専門性」
佐賀大学医学部附属病院 感染制御部助教 浦上宗治
「高齢者薬物療法における薬剤師の役割
～医師と協働した処方見直しから退院後の施設間連携まで～」
独立行政法人地域医療機能推進機構 九州病院 薬剤部 阿部名月
特別講演
座長：九州大学病院 教授・薬剤部長 増田智先
「がん薬物療法における薬剤師の役割 ～これまでと、これから～」
神戸市立医療センター中央市民病院 薬剤部副部長代行 池末裕明
◆参加人数 220 名

9. 医療薬学教育セミナー
第 2 回 医療薬学教育セミナー
開催日 平成 30 年 4 月 22 日（日）
会 場 日本薬学会長井記念館地下 2 階ホール
基調講演 1
「臨床研究に絡む規制と倫理的考論～人を対象とする研究の実践を目指して～」
寺元剛（北海道大学病院 臨床研究監理部）
基調講演 2
「研究成果を科学論文として発表するための know-how
～倫理審査・利益相反から投稿まで～」
野田幸裕（名城大学 薬学部、医療薬学編集委員）
特別講演 「臨床研究を論文にする際の統計解析：押さえるべきポイントと
落とし穴にはまらないために」
山村重雄（城西国際大学 薬学部）
シンポジウム

座長：田崎嘉一、高田龍平（医療薬学教育委員会 委員）
「薬局ができる臨床研究～計画から倫理審査、論文投稿に向けて～」
飯嶋久志（千葉県薬剤師会）
「クリニカルクエスチョンから臨床研究へつなげるための STEP」
水野貴仁（公立陶生病院 医療技術局薬剤部）
「一般病院の薬剤師が臨床論文を書くために～大学薬学部との連携～」
石井直子（柏市立柏病院 薬剤部）

◆参加者人数 223名

10. がん専門薬剤師集中教育講座

(1) 東京

開催日 平成 30 年 2 月 17 日、18 日
会 場 一橋大学 一橋講堂
第 1 日 平成 30 年 2 月 17 日(土)
「がんの発生、転移、薬剤耐性」 がん研究会 がん化学療法センター所長 藤田直也
「抗がん薬の臨床薬理」 京都薬科大学 薬物動態解析学分野教授 栄田敏之
「安全な化学療法の実践」 神戸市立医療センター中央市民病院
薬剤部副部長代行 池末裕明
「支持療法」 日本医科大学付属病院 薬剤部 伊勢雄也
「白血病、造血幹細胞移植」 北海道大学大学院 医学研究院内科系部門内科学分野
血液医科学教室 教授 豊嶋崇徳
「がん薬物療法の臨床試験」 国立がん研究センター東病院 臨床研究支援部門
研究企画推進部安全管理室長 米村雅人
「放射線腫瘍学」 国立がん研究センター中央病院 放射線治療科医長 中山優子
「悪性リンパ腫の薬物療法」 静岡がんセンター 血液・幹細胞移植科部長 池田宇次
第 2 日 平成 30 年 2 月 18 日(日)
「皮膚がんの薬物療法」 国立がん研究センター中央病院 皮膚腫瘍科長 山崎直也
「小児がんの薬物療法」 京都大学大学院 医学研究科 発達小児科学講師 平松英文
「緩和医療とがん疼痛治療」 長崎大学病院 薬剤部 龍恵美
「胃がんの薬物療法」 愛知県がんセンター中央病院 薬物療法部長 室圭
「大腸がんの薬物療法」 埼玉医科大学国際医療センター 消化器内科（消化器腫瘍科）
診療部長・教授 濱口哲弥
「肺がんの薬物療法」 関西医科大学附属病院 呼吸器腫瘍内科診療教授 倉田宝保
「乳がんの薬物療法」 がん研究会有明病院 乳腺センター
院長補佐・乳腺センター長 大野真司

◆参加人数 457名

(2) 京都

開催日 平成 30 年 5 月 19 日、20 日
会 場 京都大学百周年記念ホール
第 1 日 平成 30 年 5 月 19 日(土)

「大腸がんの薬物療法」	京都大学大学院 医学研究科 腫瘍薬物治療学助教	堀松高博
「悪性リンパ腫の薬物療法」	京都大学大学院 医学研究科	
	血液・腫瘍内科学助教	菱澤方勝
「安全ながん薬物療法の実践」	帝京大学 薬学部 医薬情報学研究室教授	板垣文雄
「がん薬物療法の臨床試験」	慶應義塾大学 医学部 臨床薬剤学教室専任講師	今村知世
「白血病、造血幹細胞移植」	京都大学大学院 医学研究科	
	血液・腫瘍内科学特定病院助教	諫田淳也
「がんの発生、転移、薬剤耐性」	北陸大学 薬学部 臨床薬学教育センター教授	石川和宏
「胃がんの薬物療法」	京都大学大学院 医学研究科 腫瘍薬物治療学特定助教	松原淳一
「抗がん薬の臨床薬理」	京都薬科大学 薬物動態学分野教授	栄田敏之
第2日 平成30年5月20日(日)		
「婦人科領域がんの薬物療法」	京都大学大学院 医学研究科 婦人科学・産科学助教	安彦郁
「肺がんの薬物療法」	京都大学大学院 医学研究科 呼吸器内科学助教	金永学
「支持療法」	国立病院機構九州医療センター 薬剤部副薬剤部長	林稔展
「乳がんの薬物療法」	国際医療福祉大学 医学部 臨床腫瘍科教授	石黒洋
「肝臓、胆道、脾がんの薬物療法」	滋賀医科大学 外科学講座教授	谷眞至
「頭頸部がんの薬物療法」	滋賀医科大学 耳鼻咽喉科学講師	神前英明
「緩和医療とがん疼痛治療」	長崎大学病院 薬剤部 麻薬室室長	龍恵美
◆参加人数 446名		

(3) 東京

開催日 平成30年7月28日、29日		
会場 帝京平成大学冲永記念ホール		
第1日 平成30年7月28日(土)		
「乳がんの薬物療法」	がん研究会有明病院 院長補佐・乳腺センター長	大野真司
「頭頸部がんの薬物療法」	国立がん研究センター東病院 頭頸部内科医員	岡野晋
「抗がん薬の臨床薬理」	慶應義塾大学 医学部 臨床薬剤学教室専任講師	今村知世
「支持療法」	大阪薬科大学 臨床薬学教育研究センター	内田まやこ
「がんの発生、転移、薬剤耐性」	近畿大学 医学部 ゲノム生物学教室教授	西尾和人
「大腸がんの薬物療法」	静岡県立静岡がんセンター 消化器内科部長	山崎健太郎
「皮膚がんの薬物療法」	がん研究会有明病院 皮膚科副医長	西澤綾
「緩和医療とがん疼痛治療」	聖隸横浜病院 薬剤部長	塩川満
第2日 平成30年7月29日(日)		
「がん薬物療法の臨床試験」	国立病院機構北海道がんセンター 薬剤部	
	病棟業務管理主任	玉木慎也
「悪性リンパ腫の薬物療法」	金沢大学附属病院 輸血部准教授 病院臨床教授	山崎宏人
「泌尿器がんの薬物療法」	広島市民病院 泌尿器科主任部長	江原伸
「安全ながん薬物療法の実践」	国立がん研究センター東病院 薬剤部主任	野村久祥
「婦人科領域がんの薬物療法」	国立がん研究センター東病院	
	先端医療科・乳腺腫瘍内科医員	原野謙一

「肺がんの薬物療法」 和歌山医科大学 医学部 呼吸器内科・腫瘍内科教授 山本信之
「胃がんの薬物療法」 愛知県がんセンター中央病院 薬物療法部長 室圭
◆参加人数 555名

(4) 福岡

開催日 平成30年12月1日、2日
会場 九州大学医学部百年講堂大ホール
第1日 平成30年12月1日(土)
「乳がんの薬物療法」 九州大学病院 乳腺外科講師 久保真
「大腸がんの薬物療法」 九州大学大学院 医学研究院連携病態修復内科准教授 草場仁志
「胃がんの薬物療法」 九州大学大学院 医学研究院 九州連携臨床腫瘍学講座教授 馬場英司
「支持療法」 岐阜大学医学部附属病院 薬剤部主任 飯原大稔
「肝・胆・膵がんの薬物療法」 九州医療センター 肝胆膵外科科長 高見裕子
「小児がんの薬物療法」 九州大学医学部 医学研究院 地域連携小児医療学講座
准教授 古賀友紀
「抗がん薬の臨床薬理」 慶應義塾大学 医学部 臨床薬剤学教室教授 谷川原祐介
「緩和医療とがん疼痛治療」 日本医科大学多摩永山病院 薬剤部長 高瀬久光
第2日 平成30年12月2日(日)
「がん薬物療法の臨床試験」 国立がん研究センター東病院 臨床研究支援部門
安全管理室長 米村雅人
「がんの発生、転移、薬剤耐性」 広島大学大学院 医歯薬保健学研究科
分子病理学講師 仙谷和弘
「悪性リンパ腫の薬物療法」 大分大学医学部附属病院 血液内科講師 緒方正男
「白血病・造血幹細胞移植」 広島大学 原爆放射線医科学研究所
血液・腫瘍内科研究分野准教授 福島伯泰
「婦人科領域がんの薬物療法」 九州がんセンター 婦人科医長 園田顕三
「肺がんの薬物療法」 がんセンター 臨床研究センター治験推進室長 濱戸貴司
「安全ながん薬物療法の実践」 神戸市立医療センター中央市民病院
薬剤部副部長代行 池末裕明

◆参加人数 421名

11. がん専門薬剤師全体会議

第6回 がん専門薬剤師全体会議

開催日 平成30年5月12日(土)

会場 ヤクルトホール

セッション1

「10年後の薬剤師業務を見据えて」

座長：三宅知宏（伊勢赤十字病院 薬剤部）、有馬純子（鹿児島大学病院 薬剤部）

「当院における調剤ロボット導入の現状と今後の業務展開」

伊藤香織（藤田保健衛生大学病院）

「抗がん薬自動調整ロボット導入によるミキシング業務効率化とその後の業務展開」

中西真也（神戸市立医療センター中央市民病院 薬剤部）
ランチョンセミナー（小野薬品工業株式会社 共催）
座長：渡邊裕之（九州大学病院 薬剤部）
「がん免疫療法の現状と今後の展開」
竹之内辰也（新潟県立がんセンター 皮膚科）
「免疫療法と対峙するために～『これまで』と『これから』について考える～」
吉野真樹（新潟県立がんセンター 薬剤部）

セッション2

「今からできる CDTM (PBPM)」
座長：村上通康（松山赤十字病院 薬剤部）、中多陽子（大阪国際がんセンター 薬剤部）
「アンケート結果について」
松田圭一郎（山形市立病院済生館 薬局）
「竹田総合病院における PBPM への取り組み」
木本真司（竹田総合病院 薬剤科）
「医療スタッフの協働・連携によるチーム医療の推進について
—当院における CDTM (共同薬物治療管理) の導入ー」
高瀬美咲枝（厚生連高岡病院 薬剤部）
「なんちゃって CDTM から、いつのまにか CDTM へ」
田代美佳（市立池田病院 薬剤部）

セッション3

「海外に向けて発信する研究～英語論文へのチャレンジ～」
座長：松尾宏一（福岡大学 薬学部）
池末裕明（神戸市立医療センター中央市民病院 薬剤部）
「英文執筆のマインドと修練」
楳原克也（淀川キリスト教病院 薬剤部）
「論文執筆への想いと苦労」
末次王卓（九州大学病院 薬剤部）

総合討論

ディスカッサント：池田龍二（宮崎大学医学部附属病院 薬剤部）
神林祐子（京都府立医科大学附属病院 薬剤部）
イブニングセミナー（中外製薬株式会社 共催）
座長：谷川原祐介（慶應義塾大学医学部）
「免疫チェックポイント阻害剤による非小細胞肺がん治療
～わかっていること、わかっていないこと～」
高橋利明（静岡県立がんセンター 呼吸器内科）

◆参加者人数 357名

12. がん専門薬剤師アドバンスト研修会

第6回 がん専門薬剤師アドバンスト研修会
開催日 平成30年11月3日（土・祝）
会場 広島大学病院 広仁会館2階 大会議室

症例検討1「悪性リンパ腫」

司会：齊藤嘉津彦（がん専門薬剤師研修小委員会 委員）

講師：森岡健彦（県立広島病院 臨床腫瘍科部長）

片岡達夫（広島大学病院 薬剤部）

ランチョンセミナー 「悪性リンパ腫における抗体療法」

座長：松尾裕彰（広島大学病院 薬剤部教授・薬剤部長）

演者：福島伯泰（広島大学病院 血液内科准教授）

共催：協和発酵キリン株式会社

症例検討2「大腸がん」

司会：佐野元彦（がん専門薬剤師研修小委員会 委員）

講師：梶原猛史（独法国立病院機構 四国がんセンター 消化器内科医長）

小暮友毅（独法国立病院機構 四国がんセンター 薬剤部調剤主任）

講評：中多陽子（がん専門薬剤師研修小委員会 委員長）

◆参加者人数 37名

13. 薬物療法専門薬剤師集中講義

(1) 大阪

開催日 平成30年7月28日、29日

会場 大阪科学技術センター8階 大ホール

第1日 平成30年7月28日（土）

「呼吸器感染症」	九州大学病院 呼吸器科助教 原田英治
「COPD」	九州大学大学院 医学研究院 呼吸器内科学分野准教授 松元幸一郎
「アトピー性皮膚炎」	九州大学大学院 医学研究院 体表感知学講座准教授 中原剛士
「糖尿病」	大阪市立大学大学院 医学研究科 代謝内分泌病態内科学准教授 絵本正憲
「腎不全・透析」	大阪市立大学大学院 医学研究科 腎臓病態内科学講師 森克仁
「統合失調症・うつ」	国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所 精神疾患病態研究部長 橋本亮太

第2日 平成30年7月29日（日）

「小児治療（全般）」	大阪赤十字病院 小児科副部長 藤野寿典
「関節リウマチ」	京都府立医科大学 大学院医学研究科 免疫内科学 病院教授 川人豊
「悪性リンパ腫」	九州大学病院 内分泌代謝・糖尿病内科講師 白土基明
「下痢・便秘」	大阪大学大学院 医学系研究科 消化器内科学准教授 飯島英樹
「虚血性心疾患」	大阪大学大学院 医学系研究科 循環器内科学准教授 彦惣俊吾
「アレルギー性鼻炎」	大阪医科大学 耳鼻咽喉科・頭頸部外科准教授 寺田哲也

◆参加者数 92名

(2) 東京

開催日 平成30年10月20日、21日

会場 一橋大学 一橋講堂

第1日 平成30年10月20日（土）

「肝炎・肝硬変」	東京通信病院 消化器科部長 光井洋
----------	-------------------

「薬剤性アレルギー」	筑波大学 医学医療系 皮膚科講師 渡辺玲
「神経因性膀胱・過活動膀胱」	東京医科歯科大学 腎泌尿器外科学准教授 斎藤一隆
「高齢者の薬物療法」	千葉大学医学部附属病院 高齢者医療センター特任助教 石川崇広
「気管支喘息」	千葉大学大学院 医学研究院 アレルギー・臨床免疫学教授 中島裕史
「脳卒中」	千葉大学医学部附属病院 脳神経外科 診療教授 小林英一
第2日 平成30年10月21日(日)	
「甲状腺・副甲状腺疾患」	東京通信病院 内分泌・代謝内科 主任医長 勝田秀紀
「褥瘡」	自治医科大学大学院 医学研究科 皮膚科学講座准教授 前川武雄
「パーキンソン病」	東京通信病院 神経内科部長 椎尾康
「緩和ケア・緩和薬物療法」	千葉大学医学部附属病院 麻酔・疼痛・緩和医療科 診療教授 田口奈津子
「不妊症」	東京医科歯科大学 茨城県小児・周産期地域医療学講師 石川智則
「認知症」	東京医科歯科大学大学院 医歯学総合研究科 脳神経病態学分野 プロジェクト教授 三條伸夫

◆参加者数 131名

14. 関係団体への協力（本学会役員）

- 1) 一般社団法人薬剤師認定制度認証機構 理事：安原眞人 社員：本学会
- 2) 一般社団法人日本医療安全調査機構 医療事故調査制度への協力学会として登録
統括責任者：奥田真弘
- 3) 平成30年度厚生労働科学研究費補助金
医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス総合研究事業
「薬剤師が担う医療機関と薬局間の連携手法の検討とアウトカムの評価研究」
研究代表者：安原眞人
- 4) 日本医療政策機構 AMRアライアンス・ジャパンに係る活動への協力 奥田真弘

[2] 組織運営の部

1. 平成 30、31 年度 役員の選出

平成 29 年 10 月に投票を実施した役員候補者選挙において 14 名の理事候補者と 3 名の監事候補者が当選した。平成 30 年 3 月 25 日の第 10 回定時社員総会において推薦理事候補を加えた新役員 23 名（理事 20 名、監事 3 名）の選任決議が行われた。審議の結果、全候補者の就任が了承され、同総会の終結時から任期 2 年として役員に就任した。

2. 2019-2020 年度 代議員の選出

平成 30 年 10 月に代議員選挙の公示が行われ、307 名より立候補があった。続いて、代議員候補者推薦委員会によって 30 名の推薦候補者が選出され、両者を合わせて 337 名を被選挙人とした Web システムを利用した投票が実施された。本選挙の当選者は、第 11 回定時社員総会の終結時より就任することになる。

事業報告附属明細書

(平成 30 年 1 月 1 日～平成 30 年 12 月 31 日)

1. 役員 (平成 30 年 3 月 25 日第 10 回定時社員総会終了後から就任)

会頭

奥田真弘 三重大学医学部附属病院 薬剤部

副会頭

千堂年昭 岡山大学病院 薬剤部

山田安彦 東京薬科大学 薬学部

山本康次郎 群馬大学医学部附属病院 薬剤部

理事

青山隆夫 東京理科大学 薬学部

出石啓治 いづし薬局

井関健 北海道大学大学院 薬学研究院

伊藤清美 武藏野大学 薬学部

大谷壽一 慶應義塾大学 薬学部

川上純一 浜松医科大学医学部附属病院 薬剤部

河原昌美 金沢市立病院 薬剤室

吉光寺敏泰 MeijiSeika ファルマ株式会社

崔吉道 金沢大学附属病院 薬剤部

佐藤淳子 医薬品医療機器総合機構 国際協力室

武田泰生 鹿児島大学病院 薬剤部

寺田智祐 滋賀医科大学医学部附属病院 薬剤部

峯村純子 昭和大学横浜市北部病院 薬剤部

宮崎長一郎 有限会社宮崎薬局

望月眞弓 慶應義塾大学病院 薬剤部

山田清文 名古屋大学医学部附属病院 薬剤部

監事

大森栄 信州大学医学部附属病院 薬剤部

安原真人 帝京大学 薬学部

山元俊憲 公益財団法人昭和大学医学・医療振興財団

2. 事務局 (平成 30 年 12 月 31 日現在)

〒150-0002 東京都渋谷区渋谷 2 丁目 12-15 日本薬学会長井記念館 7 階

事務局長 1 名、職員 1 名、非常勤職員 2 名

以上、敬称略

協議事項 第二号議案

平成 30 年度 決算報告(案)

自 平成 30 年 1 月 1 日
至 平成 30 年 12 月 31 日

貸借対照表

平成30年12月31日現在

一般社団法人日本医療薬学会

(単位:円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	220,504,234	193,885,431	26,618,803
未収金	9,356,308	7,561,348	1,794,960
前払金	1,218,720	1,220,263	△ 1,543
仮払金	263,887	-	263,887
流動資産合計	231,343,149	202,667,042	28,676,107
2. 固定資産			
(1) 特定資産			
財政安定引当資産	200,000,000	150,000,000	50,000,000
特定資産合計	200,000,000	150,000,000	50,000,000
(2) その他固定資産			
器具備品	511,496	614,325	△ 102,829
建物附属設備	4,641,158	4,748,468	△ 107,310
ソフトウェア	53,901	152,950	△ 99,049
電話加入権	74,984	74,984	-
差入敷金	8,018,910	8,018,910	-
その他固定資産合計	13,300,449	13,609,637	△ 309,188
固定資産合計	213,300,449	163,609,637	49,690,812
資産合計	444,643,598	366,276,679	78,366,919
II 負債の部			
1. 流動負債			
未払金	17,321,822	10,256,499	7,065,323
預り金	854,985	632,642	222,343
前受金	56,066,800	25,786,400	30,280,400
流動負債合計	74,243,607	36,675,541	37,568,066
2. 固定負債			
退職給付引当金	885,000	730,000	155,000
固定負債合計	885,000	730,000	155,000
負債合計	75,128,607	37,405,541	37,723,066
III 正味財産の部			
1. 指定正味財産			
指定正味財産合計	-	-	-
2. 一般正味財産			
正味財産合計	369,514,991	328,871,138	40,643,853
負債及び正味財産合計	444,643,598	366,276,679	78,366,919

正味財産増減計算書

平成30年1月1日から平成30年12月31日まで

(単位:円)

科目	当年度	前年度	増減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
受取会費	118,775,500	115,802,500	2,973,000
正会員受取会費	117,887,500	114,866,500	3,021,000
学生会員受取会費	448,000	396,000	52,000
賛助会員受取会費	440,000	540,000	△ 100,000
事業収益	153,233,554	149,157,072	4,076,482
受取参加料	130,972,050	126,013,100	4,958,950
受取審査認定指定料	14,596,200	14,812,200	△ 216,000
受取委託料	4,000,000	4,000,000	-
受取投稿掲載料	3,665,304	4,331,772	△ 666,468
受取補助金等	600,000	800,197	△ 200,197
受取民間補助金	100,000	7,957	92,043
受取民間助成金	500,000	672,240	△ 172,240
受取地方団体補助金	-	120,000	△ 120,000
受取負担金	61,400,000	49,568,852	11,831,148
受取負担金	61,400,000	49,568,852	11,831,148
受取寄付金	11,000,000	10,351,417	648,583
受取寄付金	11,000,000	9,940,000	1,060,000
受取寄付金振替	-	411,417	△ 411,417
雑収益	9,232,056	9,482,461	△ 250,405
受取利息	19,679	8,659	11,020
受取広告料	6,765,120	6,670,800	94,320
雑収益	2,447,257	2,803,002	△ 355,745
経常収益計	354,241,110	335,162,499	19,078,611
(2) 経常費用			
事業費	286,117,402	262,469,903	23,647,499
給料手当	13,854,452	13,678,140	176,312
退職給付金	118,420	557,720	△ 439,300
福利厚生費	80,969	72,468	8,501
法定福利費	2,110,191	2,153,161	△ 42,970
会議費	13,189,562	8,436,710	4,752,852
旅費交通費	30,023,377	19,550,712	10,472,665
通信運搬費	15,213,557	13,325,893	1,887,664
消耗什器備品費	19,912,654	15,933,316	3,979,338
消耗品費	4,038,893	4,419,631	△ 380,738
印刷製本費	36,400,094	36,467,812	△ 67,718
図書購入費	75,320	903	74,417
減価償却費	387,601	376,958	10,643
販借料	71,572,387	85,157,723	△ 13,585,336
諸謝金	10,403,460	9,013,274	1,390,186
光熱水料費	486,368	529,268	△ 42,900
涉外費	49,640	15,280	34,360
委託費	58,668,803	43,449,055	15,219,748
支払広告料	259,200	162,000	97,200
支払助成金	596,432	-	596,432
支払手数料	8,676,022	6,432,904	2,243,118
雑費	-	2,736,975	△ 2,736,975
管理費	27,479,855	24,550,807	2,929,048
給料手当	4,279,648	4,225,184	54,464
退職給付金	36,580	172,280	△ 135,700
福利厚生費	25,011	22,386	2,625
法定福利費	651,839	665,112	△ 13,273
会議費	178,987	144,485	34,502
旅費交通費	3,644,268	4,515,702	△ 871,434
通信運搬費	288,185	300,089	△ 11,904
消耗什器備品費	257,097	576,442	△ 319,345
消耗品費	114,414	113,704	710
印刷製本費	120,698	157,034	△ 36,336
図書購入費	-	279	△ 279
租税公課	4,992,171	4,517,976	474,195
減価償却費	131,971	128,347	3,624
販借料	3,785,699	3,817,559	△ 31,860
保険料	656,280	217,000	439,280
光熱水料費	165,600	180,206	△ 14,606
涉外費	2,360	4,720	△ 2,360
他団体年会費	468,040	468,040	-
支払寄付金	50,000	50,000	-
委託費	2,674,109	1,908,820	765,289
支払手数料	2,138,011	2,228,633	△ 90,622
雑費	2,818,887	136,809	2,682,078
経常費用計	313,597,257	287,020,710	26,576,547
評価損益等調整前当期経常増減額	40,643,853	48,141,789	△ 7,497,936
当期経常増減額	40,643,853	48,141,789	△ 7,497,936

正味財産増減計算書

平成30年1月1日から平成30年12月31日まで

(単位:円)

科 目	当年度	前年度	増減
2. 経常外増減の部			
当期一般正味財産増減額	40,643,853	48,141,789	△ 7,497,936
一般正味財産期首残高	328,871,138	280,729,349	48,141,789
一般正味財産期末残高	369,514,991	328,871,138	40,643,853
II 指定正味財産増減の部			
一般正味財産への振替額		△ 411,417	411,417
一般正味財産への振替額		△ 411,417	411,417
当期指定正味財産増減額		△ 411,417	411,417
指定正味財産期首残高		411,417	△ 411,417
指定正味財産期末残高	-	-	-
III 正味財産期末残高	369,514,991	328,871,138	40,643,853

財産目録

平成30年12月31日現在

一般社団法人日本医療薬学会

(単位：円)

貸借対照表科目		場所・物量等	使用目的等	金額
(流动資産)				
	現金 預金	手元保管 普通預金 みずほ銀行 渋谷中央支店 みずほ銀行 渋谷中央支店 みずほ銀行 渋谷中央支店 ゆうちょ銀行 O一九支店 ゆうちょ銀行 O一九支店 住友銀行 渋谷駅前支店 三菱UFJ銀行 渋谷支店	運転資金として	26,265 220,477,969 94,974,176 50,686,968 21,064,632 13,969,263 39,683,389 49,986 49,555 9,356,308 3,240 277,344 216,000 250,560 294,500 8,218,814 95,850 1,218,720 1,208,720 10,000 263,887 263,887
	未収金 論文投稿料 論文掲載料 論文転載許諾料・別注分 医療薬学広告料 正会員会費 年会精算金 その他 前払金 賃料・共益費 その他 仮払金 学術第2			
	流动資産合計			231,343,149
(固定資産)				
特定資産				
	財政安定引当資産 みずほ銀行 渋谷中央支店 三井住友銀行 渋谷駅前支店 三菱UFJ銀行 渋谷支店			200,000,000 50,000,000 100,000,000 50,000,000
その他固定資産				
	器具備品 建物附属設備 ソフトウェア 電話加入権 差入敷金			511,496 4,641,158 53,901 74,984 8,018,910
	固定資産合計			213,300,449
	資産合計			444,643,598
(流动負債)				
	未払金 給与・手当 法定福利費 消費税等 法人税等 会議費 通信運搬費 旅費交通費 その他 預り金 健康保険 厚生年金 雇用保険 204条源泉徴収所得税 正会員会費 前受金 正会員会費 学生会員会費 賛助会員会費 講談料			17,321,822 9,324 802,297 1,695,600 1,306,100 7,530 793,436 4,307,540 8,399,995 854,985 300,277 486,596 45,584 20,528 2,000 56,066,800 55,442,000 58,000 340,000 226,800
	流动負債合計			74,243,607
(固定負債)				
	退職給付引当金			885,000
	固定負債合計			885,000
	負債合計			75,128,607
	正味財産			369,514,991

財務諸表に対する注記

1 重要な会計方針

(1) 適用している会計基準

「公益法人会計基準」(平成20年4月11日平成21年10月16日改正内閣府公益認定等委員会)を採用している。

ただし、公益認定前のため、正味財産増減計算書内訳表及び貸借対照表内訳表は作成しておらず、財産目録の表示に係る規定は適用していない。

(2) 固定資産の減価償却の方法

① 有形固定資産

建物附属設備	定額法
什器備品	定率法

② 無形固定資産

定額法

(3) 引当金の計算基準

退職給付引当金

職員の退職金の支給に備えるため
期末要支給額を計上している。

(4) 消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は税込経理を採用している

2 固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高

有形固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高は、次のとおりである。

科目	取得価額	減価償却累計額	当期末残高
建物附属設備	5,365,500	724,342	4,641,158
什器備品	2,710,046	2,198,550	511,496
合 計	8,075,546	2,922,892	5,152,654

附 屬 明 細 書

平成 30 年度

1. 有形固定資産及び無形固定資産の明細

(単位:円)

資産の種類	期首帳簿価額	当期増加額	当期減少額	当期償却額	期末帳簿価額	減価償却累計額	期末取得価額
有形固定資産	器具備品	614,325	210,384	-	313,213	511,496	2,198,550
	建物附属設備	4,748,468	-	-	107,310	4,641,158	724,342
	計	5,362,793	210,384	-	420,523	5,152,654	2,922,892
無形固定資産	ソフトウェア	152,950	-	-	99,049	53,901	481,599
	電話加入権	74,984				74,984	74,984
	計	227,934	-	-	99,049	128,885	481,599
							610,484

2. 引当金の明細

退職給付引当金

資産の種類	期首残高額	当期増加額	当期減少額		期末残高額
			目的使用	その他	
退職給付引当金	730,000	155,000	-	-	885,000

協議事項 第三号議案

平成30年度 監査報告

自 平成30年1月 1日
至 平成30年12月31日

2019年2月22日

監査報告書

一般社団法人日本医療薬学会
会頭 奥田 真弘 殿

一般社団法人日本医療薬学会

監事 大森 栄 ㊞

監事 安原 真人 ㊞

監事 山元 俊憲 ㊞

私たち監事は、当法人の平成30年1月1日から平成30年12月31日までの平成30年度の業務及び財産の状況並びに理事の職務執行について監査を行いましたので、監査報告書を作成し、以下のとおり報告いたします。

1 監査の方法

各監事は、理事会に出席し理事及び使用人等からその職務の執行について報告並びに説明を受けるとともに、重要な決裁書類等を閲覧し、当法人の事務所において業務及び財産の状況を調査いたしました。

また、会計帳簿又はこれに関する資料の調査を行い、当該年度に係る計算書類及びその附属明細書並びに財産目録について検討いたしました。

2 監査の結果

(1) 事業報告等の監査結果

- 一 事業報告は、法令又は定款に従い法人の状況を正しく示していると認めます。
- 二 理事の職務の遂行に関して、不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実は認められません。

(2) 計算書類及びその附属明細書並びに財産目録の監査結果

計算書類及びその附属明細書並びに財産目録は、財産及び損益の状況を全ての重要な点において適正に示していると認めます。